

国営沖縄記念公園首里城地区 計画・設計の記録

【平成の復元】

沖縄開発庁沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所

平成7年3月

はじめに

首里城公園は、国指定の史跡である首里城跡とその周辺を国や沖縄県が共同で都市公園として復元整備したものである。平成4年11月3日に、その一部が開園して以来、早くも2年5ヶ月が経過した。この間多くの方々がこの地を訪れており、復元されたこの歴史的空間の中で、琉球王朝時代を感じ、沖縄固有の歴史文化のすばらしさを発見していただければ幸いである。

首里城公園は、沖縄の歴史文化の拠点として、あるいは歴史的風土を活かしたまちづくりの拠点として期待されており、これに応えるとともに、可能な限り忠実に復元整備することが課題となっていた。

多くの学識経験者や様々な分野の専門家、あるいは行政関係者の方々が、乏しい資料の中、更に新たな資料の発掘や収集及び遺跡発掘調査等を精力的に行い、これらを総合的に検討しながら計画を練り設計を行ってきた。その中で、戦前の首里城を知る古老の証言をはじめ、当時の貴重な写真の提供など沖縄県民から多大な協力や本事業に対する熱烈な応援があった。これが事業の具体的な進捗に貢献するだけでなく、事業関係者への精神的支援ともなった。

このような広範囲な人々の支援協力により復元事業としては極めて精度の高いものとなり、まちづくりや地域経済にも多大な影響を与える事業として進めることが出来た。本事業は、現在もまだ継続中であり、未整備区域を中心に資料収集や遺跡の発掘等を行いながら、復元整備を進めている。

本書は、首里城公園が平成4年11月3日に部分開園した時点の一つの区切りとして、平成5年度の「建設の記録」に引き続き、計画から設計段階までの記録をとりまとめたものである。

今後新たに首里城公園の事業に参加される方々がこれまでの復元事業の経過を学ぶ上で、「建設の記録」と併せて本書を活用していただきたい。また、歴史文化への関心が高まりつつある昨今、同様の復元事業が全国で展開されており、少しでも本書がそれらの事業の参考になることを期待するものである。

平成7年3月

国営沖縄記念公園事務所長

西川 嘉輝

■首里城公園の概要

滝野すずらん丘陵公園(イ)★
 国営越後丘陵公園(イ)
 国営アルプスあづみの公園(イ)
 国営木曽三川公園(イ)★
 淀川河川公園(イ)★
 国営明石海峡公園(イ)
 国営備北丘陵公園(イ)★
 海の中華海浜公園(イ)★
 国営みちのく
 杜の湖畔公園(イ)★
 国営ひたち海浜公園(イ)★
 国営武蔵丘陵森林公園(ロ)★
 国営昭和記念公園(ロ)★
 国営鳥居歴史公園(ロ)★
 国営吉野ヶ里歴史公園(ロ)
 国営讃岐まんのう公園(イ)
 国営飛鳥歴史公園(ロ)★

★表示の所は供用開始済み(平成7年3月末現在)

全国の国営公園

◎国営公園の種類

(イ)一つの都府県を越えるような広域の見地から設置する都市計画施設である公園または緑地(イ号国営公園という)。

(ロ)国家的な記念事業として、または我が国固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るため閣議の決定を経て設置する都市計画施設である公園または緑地(ロ号国営公園という)。



位置図

国営沖縄記念公園ロ★

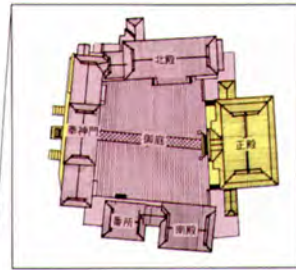
表示	事業名	事業区分	主な施設	担当部局
■	国営都市公園事業	城郭の内側	正殿、瑞泉門、漏刻門、広福門	沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所
■	県営都市公園事業	城郭の外側	駐車場、首里城公園レストセンター	沖縄県土木建築部
■	首里城郭等復元整備事業	城郭	城郭	沖縄県教育庁
■	特定公園施設整備事業	城郭以外の有料区域	南殿・番所、北殿、奉神門、御庭	住宅・都市整備公団 公園緑地部
■	県道事業	県道5049号		沖縄県土木建築部
■	都市計画道路			那覇市建設部

■事業区分

表示	施行
■	住宅・都市整備公団
■	沖縄総合事務局

■施行区分(有料区域)

有料区域



の表示部分が開園範囲。



首里城公園計画図

計	事業名		区分	整備面積	
	城郭の外側及び	城郭の内側		全体	今回開園
17.8	13.2	4.7	全	面	
3.9	2.2	1.7	今	回開園	

■整備面積

単位: ha

凡例

1. 本書は、調査・設計等に関する既存報告書を収録しているが、編集の都合上、内容の一部を割愛している。
2. 計画の前提や図版、データ等は計画時点のものである。
3. 本文末尾の【※ゴシック文字】は、設計後に変更したことや、その後の経緯などを説明したものである。
4. 寸法表示はメートル法によったが、一部必要に応じて尺寸法を併記した。
5. 文中のふりがなで、カタカナ表記は沖縄方言読みを示す。

第5章 計画条件の整理

1. 歴史的風致の整理 57
 - 1) 歴史的風致構成要素の把握 57
 - 2) 景観分析 63
2. 土地利用の整理 66
3. 施設の整理 68

第6章 基本計画

1. 景観計画 69
2. 土地利用計画 71
3. 動線計画 73
4. 施設配置計画 75
5. 利用運営計画 76
 - 1) 利用運営の基本方針 76
 - 2) 展示計画 76
 - 3) イベント計画 76
 - 4) 映像計画 77
 - 5) 広報計画 77
 - 6) サービス計画 77
 - 7) 管理計画 78
6. 造成計画 79
7. 植栽計画 81

[第2編 復元整備計画・設計編]

第1章 建築物

1. 正殿 83
 1. 歴史的経緯と建物の特徴 84
 2. 正殿復元の基本理念と基本方針 86
 3. 調査設計 87
 - 1) 構造形式 87
 - 2) 規模 87
 - 3) 位置、地盤高 87
 - 4) 各部設計 88
2. 正殿両廊下 126
 1. 歴史的経緯と建物の特徴 126
 2. 調査設計 127
3. 瑞泉門 129
 1. 歴史的経緯と建物の特徴 129
 2. 調査設計 130

4. 漏刻門 133
 1. 歴史的経緯と建物の特徴 133
 2. 調査設計 133
5. 広福門 135
 1. 歴史的経緯と建物の特徴 135
 2. 調査設計 136

第2章 城郭

1. 歴史的条件の整理 141
 - 1) 防御機能 141
 - 2) 城の尊厳、備えを示威する機能 141
 - 3) 建築空間、広場空間の形成機能 141
 - 4) 祭祀機能 142
 - 5) 風土対応及び利水機能 142
2. 石積調査 143
 - 1) 首里城に関連の深いグスク事例調査 143
 - 2) 首里城の旧石積残存状況調査 144
 - 3) 戦前の首里城写真から石積判読調査 144
3. 城郭石積復元整備の基本的考え方 145
4. 石積の規模・形態の検討 145
5. 復元構造物の安全性の検討 149
 - 1) 構造の検討と設計条件の設定 149
 - 2) 断面の構造検討結果 150
 - 3) 復元構造物工法の整理 150
6. 城門エリア（第1期開園区域）の石積 151
 - 1) 石積聞き取り調査 151
 - 2) ボーリング調査 151
 - 3) 遺構調査の結果 153
 - 4) 規模・形態の設定 155
 - 5) 復元整備工法の検討 159
 - 6) 構造設計 160

第3章 園路・広場

1. 王府時代の利用動線と園路・広場構成 163
 - 1) 歓会門動線 163
 - 2) 久慶門動線 164
 - 3) 継世門動線 165
2. 園路・広場計画の方針 166
3. 園路系統の設定 166
4. 園路・広場舗装構成の設定 167
5. 第1期開園区域の園路・広場 168

1) 瑞泉門と磴道周辺	168
2) 漏刻門の磴道周辺	168
3) 広福門～下之御庭	169
4) 木曳門・西のアザナ方面へのルート	169
5) 北殿東側磴道	169
6) 右掖門～久慶門ルート	170

第4章 工作物

1. サイン	171
2. その他の施設	173

第5章 設備

1. 電気設備	175
2. 機械設備	181
3. 雨水排水設計	183

第6章 城郭基盤造成

1. 城郭基盤造成計画のフロー	185
2. 首里城の地形に関する検討資料	185
3. 検討資料と対応する場所の整理	187
4. 地形変更の検討	187
5. 造成計画の基本方針	188
6. エリア別造成計画	188
1) 西のアザナ周辺エリア	189
2) 瑞泉門・漏刻門周辺城門エリア	189
3) 京の内周辺エリア	190
4) 久慶門東城郭周辺エリア	190
5) 正殿・御庭エリア	191
6) 書院・二階殿・料理座周辺エリア	193
7) 北東城郭エリア	193
8) 継世門周辺エリア	194
7. 全体の造成計画	195

第7章 庭園・植栽

1. 庭園	197
1) 琉球庭園の特徴	197
2) 首里城内の庭園	197
3) 庭園計画	198
2. 植栽	202
1) 植栽の歴史の変遷	202
2) 主要地点の往時の植物景観	202
3) 植栽計画	206

第8章 特定公園施設

1. 計画の前提	209
1) 御庭	209
2) 北殿	211
3) 南殿	212
4) 番所	213
5) 奉神門	214
2. 御庭ゾーン基本計画	215
1) 計画の前提となる基本的考え方	215
2) 計画を策定するにあたっての基本方針	215
3) 御庭と各建物の機能	215
4) 御庭ゾーン内の動線(順路)計画	216
5) 展示基本シナリオ	216
3. 建築基本設計	217
1) 設計の基本方針	217
2) 建築基本設計	217
3) 建物の各部詳細	217
4. 設備基本設計	219
1) 設備設計基本方針	219
2) 設備設計	219

第9章 京の内

1. 京の内の語義・語源	221
2. 京の内の空間構成	221

〔資料編〕	227
-------	-----



御庭を取り囲む建物群

■一部開園した首里城公園



北西上空より見た首里城公園（平成7年）



守礼門 昭和33年に復元され、平成4年に保存修理工事が行われた



歓会門 昭和49年に復元された



瑞泉門 手前右下に龍樋がある



この龍樋は1523年に中国から舶来されたものと言われている



漏刻門 右奥の建物は広福門



漏刻門から北殿、奉神門方向を見る



広福門北面 右手は漏刻門



下之御庭より奉神門正面を見る



正殿全景 木造で復元された。外観は二重屋根で内部は三階建てとなっている





正殿一階御差床正面



正殿二階御差床正面



北殿正面



左は南殿、右は番所



御庭を取り囲む建物群 正面奥は正殿、右に南殿・番所、左奥に北殿、手前は奉神門



首里城公園の中心部を遠望する。手前は守礼門

沖繩縣琉球國首里舊城之圖

甲午初五陽日

董山查不烈



「首里旧城之図」 明治二十七年、仲宗根嶧山（查不烈）筆 沖縄県立博物館蔵

■ 戦前の首里城



崎山方面より首里城を見る。右手に正殿、二階殿などの建物が見える。(大正末期) 沖縄県立芸術大学蔵



世持橋から龍潭ごしに首里城を遠望する。(明治末期) 『望郷沖縄』



守礼門（大正末期）沖縄県立芸術大学蔵



歡会門（大正末期）沖縄県立芸術大学蔵



瑞泉門（大正末期）沖縄県立芸術大学蔵



漏刻門（大正末期）沖縄県立芸術大学蔵



修理を終えた正殿（昭和8年以降）文化庁文化財保護部建造物課蔵



正殿正面唐破風（昭和10年頃）『琉球建築』



北殿（大正末期）沖縄県立芸術大学蔵



南殿・番所（大正末期）沖縄県立芸術大学蔵